

令和 5 年度

事業者番号	0218	事業所番号	021804
-------	------	-------	--------

事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告

1 事業所の概要

(1) 事業所種別

事業所種別	C 平成20年度以降の3か年度(年度の途中から当該事業所の使用が開始された場合にあつては、当該年度を除く3か年度)連続して、年間原油換算エネルギー使用量が1,500kL以上の事業所(他の事業所の一部(区分所有部分、テナント部分等)である事業所は除く)
-------	---

(2) 事業所及び事業内容

事業所名	元荒川水循環センター		
事業所所在地	市区町村	桶川市	
	字・地番	大字小針領家939番地	
産業分類名(中分類)	36 水道業		
分類番号(中分類)	36		
事業活動の概要	事業内容	主な事業内容: 荒川左岸北部流域の下水処理 令和4年度流入水量 : 57,054(千m ³ /年)	

2 事業所の温室効果ガス排出量の削減目標

(1) 第3計画期間の削減目標

計画期間		2	年度	~	6	年度
削減目標	エネルギー起源CO ₂ (必須)	基準排出量から、令和2~6年度までの排出量を平均20%以上削減する。(必要に応じて、その他ガス削減量、排出量取引を活用する)				
	その他ガス	下水汚泥の高温焼却を実施し、平成15年度~平成17年度を基準年度として、令和2年度から令和6年度において、年間の一酸化二窒素の排出量を約3,500(t-CO ₂)削減する。				
エネルギー起源CO ₂ の削減目標の概要	排出可能上限量(計画期間合計)	49,768	t-CO ₂	事業所区分 第2区分		
	削減目標量(計画期間合計)	12,442	t-CO ₂			

(2) 第4計画期間の削減目標

計画期間		7	年度	~	11	年度
削減目標	エネルギー起源CO ₂ (必須)					
	その他ガス					

3-1 事業所の温室効果ガス排出量

(1) 原油換算エネルギー使用量の推移

原油換算エネルギー 使用量(kL)	計 画 期 間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
	5,877	5,459	5,414		

(2) 計画期間の温室効果ガス排出量の推移

CO₂換算 (t-CO₂)

	計 画 期 間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エ ネ ル ギ ー 起 源 CO ₂	11,928	11,105	11,000		
前 年 度 比 (%)	—	-6.9	-0.9		
そ の 他 ガ ス					
非エネルギー起源 CO ₂					
メ タ ン	1,371	1,232	1,261		
一 酸 化 二 窒 素	6,886	7,095	4,993		
ハイドロフルオロカーボン					
パーフルオロカーボン					
六 ぶ っ 化 い お う					
三 ぶ っ 化 窒 素					
温 室 効 果 ガ ス の 合 計	20,185	19,432	17,254		

(3) 計画期間の温室効果ガス排出量原単位の状況（エネルギー起源CO₂）CO₂換算 (t-CO₂/指標)

	計 画 期 間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO ₂ 排出量原単位	0.1920	0.1992	0.1928		
前 年 度 比 (%)	—	3.7	-3.2		
活 動 規 模 の 指 標					
単 位					
高級処理水量	1000m ³ /年	62,120.13	55,757.45	57,053.89	

(4) エネルギー起源CO₂排出量の増減に影響を及ぼす要因の分析

令和2年度 (2020年度)	建物の床面積の増減	無	建物の用途変更	無	設備の増減	無	令和元年度と比較して、令和2年度は排出量が少し増加した。 焼却炉で使用する灯油量の増加のため
令和3年度 (2021年度)	建物の床面積の増減	無	建物の用途変更	有	設備の増減	無	令和2年度と比較して、令和3年度は排出量が減少した。 【理由】 以下の理由による電気量減が影響したと考えられる ・省エネ型の空調設備への更新 ・設備工事による水処理施設の一部停止 ・流入水量減による処理水量の減 令和4年度受検した第三者検証で、防災倉庫（32.54㎡）を確認し、加筆修正した
令和4年度 (2022年度)	建物の床面積の増減	無	建物の用途変更	無	設備の増減	無	令和3年度と比較して、令和4年度は排出量が減少した。 【理由】 ・焼却炉で使用する重油量及び灯油量の減少のため。
令和5年度 (2023年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減		
令和6年度 (2024年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減		

3-2 温室効果ガス削減目標に係る状況

(1) 基準排出量

基準排出量	12,442	t-CO ₂ /年
基準排出量の検証	実施済	

(2) 基準排出量の変更

	変更年度	変更量 (t-CO ₂ /年)
1		
2		
3		
4		
5		

(3) 目標削減率

目標削減率の区分	第2区分
----------	------

(4) 削減計画期間

2	年度から	6	年度まで
---	------	---	------

(5) 年度ごとの状況

(排出量等の単位：t-CO₂)

		令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	削減期間 合計
基準 排出 量 等	基準排出量(A)	12,442	12,442	12,442	12,442	12,442	62,210
	目標削減率の 緩和措置						
	トップレベル認定						
	目標削減率(B)	20.00%	20.00%	20.00%	20.00%	20.00%	
	排出上限量 (C = Σ A-D)						49,768
	排出削減目標量 (D = Σ (A × B))						12,442
実 績	エネルギー起源 CO ₂ 排出量(E)	11,928	11,105	11,000			34,033
	削減率 (F = (A - E) / A)	4.13%	10.75%	11.59%			—
	排出削減量 (G = A - E)	514	1,337	1,442			3,293
各年度の排出量の検証		実施済	実施済	未実施			

4 温室効果ガスの排出の抑制等に関する措置の計画及び実施状況

No	対 策 の 区 分			対 策 概 要	実施 予定 年度	実施 した 年度	推計 削減量(t) (1年度 当たり)
	区 番	分 号	区 分 名 称				
			大 区 分 中 区 分				
1	330200		33_加熱及び冷却並びに伝熱の合理化に関する措置	空調設備改修	R2	R2	
2	360700	ポンプ、ファン、ブローワー、コンプレッサー等	36_電気の動力・熱等への変換の合理化に関する措置	5系水処理反応タンク超微細散気装置を導入	R3	R4	
3	360700	ポンプ、ファン、ブローワー、コンプレッサー等	36_電気の動力・熱等への変換の合理化に関する措置	1系水処理反応タンク超微細散気装置を導入	R7以降		
4	490100	その他	49_排出量取引	排出量取引を行い目標達成に努める。 (その他ガス削減量の活用 含む)	R7以降		
5							
6							
7							
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							

5 事業者として実施した対策の内容及び対策実施状況に関する自己評価

（※希望者のみ記載）

自由記述欄

